

雑 報

553.31 : 550.85 (521.85)

山口県大嶺鉱山鉱床調査報告

山口県の実情に基づき、昭和28年11月12日から2日間山口県美彌郡伊佐町字下村安広原に賦存する大嶺鉱山の鉄鉱床を調査した。おもな鉱床は古生代の石灰岩層と粘板岩層との境に胚胎する。鉱床の上部は露天化残留作用を受けている。地表より下部14mの所すなわち大切坑地並において、鉱床は50~70°Sの傾きを示し、その規模は延長約33m、厚さ最大約6mである。調査当時は大切坑地並において稼行していた。鉱石は磁鉄鉱を主として

いるが、露天化残留部において相当多量の赤鉄鉱を伴い、一部褐鉄鉱化を受けている。その他の鉱物として少量の白鉄鉱およびまれに石膏を認めたと過ぎない。塊鉄の品位は Fe 61~65%，小塊および粉鉄の品位は Fe 54~59%である。今後は稼行鉱床の下部状況を明らかにし、鉱量の獲得に努めるべきである。

(調査：上野三義・土井啓司，抄録：宮本)

553.31 : 550.85 (521.76)

奈良県川迫鉱山鉄鉱床調査報告

昭和29年11月22日から3日間奈良県吉野郡天川村の川迫鉱山の鉄鉱床を調査した。鉱床は近畿電鉄吉野駅の南東方39kmの所に位置する。鉱床は古生層中の石灰岩および石灰質粘板岩中に花崗岩類が侵入して生成された高温交代性の接触鉄鉱床である。鉱床は塊状あるいはレンズ状の形を示し、ヌルマ谷の左岸には東西の方向の線上に点々と配列されている。おもな鉱床は主として磁鉄鉱およびスカルン鉄物からなり、第4鉱床の東端においては磁硫鉄鉱・黄鉄鉱が混じる。

各鉱床の規模の概要は右表に示される通りである。本表の各鉱床の平均品位を Fe 50%と見込まれる。

鉱床名	走向延長 (m)	傾斜延長 (m)	幅 (m)	鉄量 (t)
布引	50	90	0.5~2.0	24,000
第4	60	60	平均6	47,000
第1	30	80	平均7	109,000

粉状磁鉄鉱； 平均品位 Fe 53%， P 0.065%， S 0.425%

塊状磁鉄鉱； 品位 Fe 54~64%， P 0.017~0.018%， S 0.005~0.12%

(調査：原口九万・北 卓治)

553.31 : 553.494 : 550.85 (524)

北海道上川郡下川町の含チタン砂鉄鉱床調査報告

(1) 昭和28年11月中旬、名寄本線下川駅の北直距離約2kmの山地に設定された含チタン砂鉄の予察調査を行った。

(2) 鉱業権者：秋田市保戸野愛宕町24 斎藤憲三

(3) 鉱区内は一般に丘陵地帯をなして海拔300mを最高とし、これらを刻む小流に鉱床が胚胎している。地質は新第三紀層・同噴出岩類および第四紀層からなり、新第三紀に属するものは砂岩と、安山岩・安山岩質集塊岩・凝灰岩・石英粗面岩等の噴出岩類からなる。

第四紀層は砂礫粘土を主とし、鉱区の西側のサンル川、南側の名寄川に沿って広く河成段丘を形成している。

(4) 鉱床は上記の小流の川床に主として賦存している。川床における鉱石の産状は全般に分散し、局部的には墨流し状に濃集している所もある。全体的にみて原砂

に対する鉱石の含有率は鉱区を南流する小流の方が高率で3%+である。その他氾濫原中のものにも含まれているが、積雪70cmにも達していたため、試験掘りは困難で3カ所にとどまり、全体の賦存状況は把握できなかったが、あまり期待はもてないようと思われる。また段丘の砂礫粘土中のものはその量はきわめて僅少である。

(5) 着磁率は低く、平均0.9%で他地区の砂チタンおよび含チタン砂鉄と比較して、磁性はきわめて少ない。品位は目下分析中であるが、水洗精鉄においてはおよそ TiO₂ 30%位は見込まれる。

(6) 全体の埋蔵量はまだ明らかでないが、TiO₂として高品位なので今後さらに附近一帯を精査し、全般的な鉱床状態を明らかにする必要がある。

(調査：松村 明)